

心に残る文化財子ども塾 安来市立能義小学校

1.活動の概要

7月10日(木)、安来市立能義小学校で『心に残る文化財子ども塾』を開催しました。はじめに島根県埋蔵文化財調査センターの職員の説明で、能義小学校周辺および安来市内の遺跡や古代の人々の生活について学びました。小学校の近くには、税として納められた米を保管した倉の跡など多くの遺跡があること、安来市内でも勾玉や管玉を作った遺跡が見つかったことなどが紹介されました。その後、本物の出土品を見たり、実際に触れてみる体験もしました。島根県内の遺跡から出土した弥生時代の土器や安来市内で出土した勾玉のほか、安来市教育委員会の協力により、小学校近くの遺跡から出土した奈良時代の土器なども見ることができました。

休憩の後、火おこしと勾玉づくりを行いました。火おこしは二人一組で取り組み、残念ながら火はつきませんでしたが、煙が出てあと一步のところまで頑張った組もありました。勾玉づくりでは、慎重に石を削っていたため、時間内に完成する児童はいませんでした。体験ではかなり柔らかい石を使いましたが、それでも完成までにかかなり時間がかかることがわかり、メノウなどの硬い石で玉をつかった古代の人たちのすごさを実感できたと思います。授業の最後に、感想を発表して終了しました。

2. 活動の様子

1) 校区内や安来市の遺跡について学ぶ 校区内の遺跡から出土した土器にふれる



「能義小学校周辺の遺跡を紹介します。」



「小学校近くの遺跡から出土した本物の土器です。」

2) 火おこし



火がつかない。

3) 勾玉づくり



工夫しながら形を整えていきます。

3. 子ども塾を終えて

1) 児童の皆さんから(アンケートの回答より)...

心に残ったこと

- 火おこし(2人で協力してできた・みんなでがんばった・大変だった)
- 勾玉づくり(昔の人はたくさんつくっていてすごい・丸くするのが大変・作り方に興味を持った・作るのが大変)

もっと知りたいこと・体験してみたいこと

- 能義地区の古墳について
- 土器の作り方
- 玉に穴を開ける理由が知りたい
- 火がつくまで火おこしをやってみたい

2)担任の先生から…

- 自分たちの住む地域にも遺跡があることを知ってより身近なこととして感じ、学習を深めるきっかけづくりになりました。
- 体験活動(火おこし・勾玉づくり)をとおして、一つのものを作り出す大変さを知り、古代の人々の文化や生活への興味・関心が高まりました。
- 県内の遺跡からの出土品を見て、子どもたちはとても興味を持っていました。子ども塾が終わってからの歴史の学習で、自分たちが見聞きしたこと等を活かして学習に取り組む姿を見ることができて良かったです。
- 学校では USB の使用に制限があるため、USB(PowerPoint)データがうまく表示できませんでした。事前の打合せの際に、当日使う機器で表示できるかどうか確認が必要だと思います。

3)埋蔵文化財調査センターから

能義小学校区内の遺跡を中心に、安来市内の遺跡や出土品を紹介しました。埋蔵文化財調査センターが持っている出土品のほか、安来市教育委員会の協力を得て、小学校の近くにある潜戸山遺跡の出土品も見ることができました。

体験活動では、火おこし、勾玉づくりとも思うようにいかなかったところもありましたが、協力し合いながら一生懸命活動に取り組む姿勢が素晴らしかったです。そして古代の人々の生活や高い技術についても実感してもらえたのではないのでしょうか。今回の授業が、今後の歴史学習への興味・関心を高めるきっかけになれば幸いです。